



## もう一つの日本、平和国家へ

核戦争等による人類絶滅への指標「世界終末時計」は2026年になり残り85秒を指しているといわれています。これが始まった1947年は残り7分であり、冷戦が終結した1991年は残り17分まで戻りました。しかし21世紀に入って7分前に進み、さらにどんどん短くなっています。

背景には核戦争の危機もはらむロシアのウクライナ侵略戦争、イスラエルのガザでのジェノサイド、そして米国とイスラエルによるイランへの攻撃があります。そして国連憲章遵守に対するG7諸国のダブルスタンダードも露呈しました。

日本でも高市自維政権は、2月の総選挙で得た圧倒的な議席を背景に、これまでの「平和国家」を大きく転換させる軍事費の大幅な増大や武器輸出解禁、そして改憲も含めた戦争が出来る国づくりを進めています。

このような情勢の下ですが、私たちは平和憲法を守り、子や孫に平和な日本を引き継ぎたいと思います。そのためには歴史をきちんと伝える必要があります。

6月に新潟県上越市を訪ねました。ここにも平和資料館がありました。この地にあったアジア太平洋戦争時の捕虜収容所跡地に建てられたものです。700人ほどが収容されていて、多くがオーストラリア兵でした。

上越市は戦争の悲劇を伝えるとともに、同じ捕虜収容所があったオーストラリアのカウラ市と平和友好交流をもっています。戦争の記憶を市民と共有しながら国際交流も広めています。展示館は市民団体・上越日豪協会が運営協力していました。

全国各地の平和記念館・資料館の多くは、それぞれの都市の空襲被害を展示しています。戦争を伝える入り口はそれでいいと思いますが、明治以後のアジアや中国大陆への侵略戦争の歴史をきちんと反省する展示が求められます。

近隣諸国との友好関係をつくるためにも、市民自身が近現代史を知る必要があります。平和記念館が平和を守る力になります。

(世話人代表 長久武司)

## 引き続き「平和記念館」を要望

6月に歴史公文書館が開館しました。6月9日に見学してきましたが、旧岡方倶楽部の建物を改修した3階建ての別館は思ったよりも小さいものでした。

そして7月2日に神戸市財政局総務課に対し、神戸市教職員組合(以下神戸教組)と一緒に懇談会を持ちました。矢野浩二、香川真二市会議員も同席されました。

歴史公文書館については、展示内容は評価をしつつも平和記念館の代わりにはならない、というのが神戸教組のみなさんも含めて全員の意見です。

神戸教組の先生は「広島や長崎に行く修学旅行は予算面でも厳しくなっている現状があり、体験的に学べる身近な平和記念館が必要」と強調されました。神戸市は平和記念館の設立(廃校などの利用を含めて)を否定する従来の考え方を繰り返しました。

それ以外で、神戸空襲などを市民に伝えていくために、広報誌での掲載、子ども向けのリーフレット、出前トークの活用、戦争遺跡の標識など平和行政の充実を求めました。

1時間の懇談で十分な意見交換は出来ませんでした。引き続き神戸空襲など戦争の記憶の展示、平和行政の充実、平和記念館の設立を求めています。



## 『2026 神戸空襲と神戸港の写真展』を開催(報告)

去る 3 月 26 日から 31 日までの 6 日間、神戸市長田区文化センターで標記の写真展を開催しました。東京・千葉・横浜など県外を始め市外からも多くの人にご来場頂き 315 人の方に鑑賞していただきました。

今年の写真展では、神戸空襲による市街地の被災状況地図や写真のほか、「戦時中の教科書と子どもたち」や「戦争と動物園」についても展示しました。

国家総動員体制のもと、若者たちを戦争の担い手にするため、戦時下の教育は子どもたちの生活のすべてを軍事色に染めるものでした。学校では国や天皇のために尽くすことが「国家の一員としての役割」と教え込まれていました。当時の子どもたちが使っていた教科書を展示しました。

それとともに現在の中学生の歴史の教科書も展示し、「日本の歩みと世界の動き」では、戦争に突き進んだ道について、その内容にコメントも附してみました。

戦争で命を奪われたのは人間だけではありません。動物たちもまた犠牲になりました。身近にいた馬や犬、ウサギや猫たちは「軍用動物」として様々な形で利用され殺されました。動物園の動物たちはどうだったのでしょうか。毒殺や毒入りのえさを食べない動物はえさを与えず弱らせて絞殺するなど殺処分されていきました。神戸の「諏訪山動物園（現在の王子動物園の前身）」の状況を当時の新聞記事などを展示して知って頂くとともに、平和であってこそ動物たちと幸福に暮らせることを訴えました。

軍需産業の拠点、兵站基地として使われた神戸港を ①太平洋戦争終了まで ②米軍（GHQ）接收時 ③朝鮮戦争・ベトナム戦争時～現在まで の3段階に分けて写真・地図・説明文とともに展示しました。米軍の飢餓作戦による機雷投下や戦後の機雷掃海の図や説明は、折しもイランによるホルムズ海峡の機雷封鎖がニュースになったこともあり興味を引く内容となったようです。



広島・長崎被爆から 81 年になります。被爆体験を聞いた高校生が、被爆者と共同制作した絵を展示しました。

原水爆禁止の長く粘り強い運動の末 2017 年 7 月国連で核兵器禁止条約が採択されました。2024 年には日本被爆者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。核兵器禁止条約は 2025 年 9 月現在批准国・地域は 74 カ国、署名は 95 カ国になっていますが、被爆国である日本政府は未だに批准もしていません。一刻も早い批准を求めています。

私たちは「神戸に平和記念館をつくりたい」という想いの中でこの写真展を開催しています。全国には様々な平和記念館・資料館があります。政令指定都市の平和記念館・資料館と姫路市平



和資料館を始めとする県内の平和施設を展示しました。東京大空襲を上回る被害率を持つ神戸で、若い人や子どもたちが地元神戸で起きた戦争の歴史を学び、平和学習の場として研究・発信していける「平和記念館」を作ることは、大きな意味があるのではないのでしょうか。

## 参加者からの感想文

ご協力ありがとうございました

● 戦争は二度としてはいけないことだから、それをこれからたくさんの人に伝えないといけないので、このような活動はとても今大切なことだと思います。体験者が少

なくなっていき、忘れられてしまうかもしれない。だからこそ、忘れてはいけないことをみんなに伝え、日本から世界を平和にしていきたい。(10代)

● 神戸港関連の展示が特に良かった。(50代)

● 今回は戦争と動物のコーナーに一番興味があり来ました。毎年来るたびに新しい事実を知ることができるので毎年これからも開催してほしいです。入口に掲示されていた平和資料館は全部回ってみようと思います。(40代)

● 神戸市のような大きな都市で平和資料館が無いと、正直驚いた。80年で世界情勢がこうなっている。若い人のために常設展示する場所があって欲しい。(50代)

● 限られたスペースですが、動物園や学校教科書など、子どもたちにも興味深い資料にも紹介されており良かったです。(60代)

● 機雷の敷設の事についての展示があったが、今のホルムズ海峡の状況の意味がわかった。

● 神戸で生まれた子ども達に戦争の痛みを少しでも伝えられたらと思います。けれど神戸の被災について殆ど知らないで、今日の展示は良い機会になりました。(70代)

## 講演会報告

### 「戦後80年「日本人ファースト」をどう見るか」

昨年 11 月 30 日にナチズム研究を専門とされる社会歴史学者の田野大輔甲南大学教授の講演会(参加 56 名)を開催しました。

「日本人ファースト」を掲げた参政党の躍進の根底には、心の底に抱く不満や言いたくても言えなかった本音、胸のうちに抑圧してきた憎悪などを移民・外国人敵視の政策に結び付け、危機感

を煽る手法などにナチスとの類似性が見られると指摘。マスコミの権威主義や既得権層、その庇護下にあるマイノリティへの憎悪や敵意を煽る排外主義的ポピュリズムの台頭がファシズム再来の危険性をはらんでいると話されました。

また兵庫県知事選挙での真偽不明の情報や陰謀論に加え「嘘つきメディア」、「既得権益に一人で立ち向かう斎藤氏」などの印象操作によりつくり上げられた斎藤氏は「実はいい人」論の拡散には、政治に善性もとめる感情や「自分は本当のことを知っている」という優越感、「物事を客観的に見れるオレ」という高い自意識など、個人の良心や感情に基づく価値判断(『価値相対主義』)のデメリットでもある自己の価値観の絶対視にあり、ナチス評価に見られる「善悪両面ある」という考え方の危険性が顕在化した事例であることが強調されました。

### 《参加者感想》

- ☆ 聞きたい内容だったので良かったです。もっと参政党や兵庫県知事選挙の分析を学習したい。(60代)
- ☆ 今日の話も大変勉強になりました。……SNS が過激化するほど広告料などで儲かる等、匿名性が高く、犯罪や誹謗中傷が常態化するなど問題が多くあり、改善する必要があると思いました。(70代)





## 「神戸市歴史公文書館」を見学して

今年の6月1日にオープンした「神戸市歴史公文書館」の見学会が6月9日にあり会のメンバー8人が参加しました。市の担当職員、神戸市教職員組合の役員等20人近くが参加、館長と村上学芸員の案内で本館・別館を見学しました。

本館は5階建て、1階が閲覧室、2階から5階が収蔵庫です。戦災に関する資料も全てここに収蔵されています。本館の閲覧室は、自由に手に取って閲覧できる本や資料の他に、新しい資料の検索システムがあり自宅からも資料を閲覧・ダウンロード出来るようになっていました。

別館はリニューアルされた3階建の旧岡方倶楽部の会館（国の有形文化財）で、歴史を感じる落ち着いた雰囲気です。現在は2階の常設展示と3階の企画展示「神戸市政のあゆみ」が分かりやすく展示され、「神戸空襲」も水害・震災と同様に展示されています。3階の常設展示は、神戸市史の編さん、公文書管理、旧岡方倶楽部についての展示です。

参加者の感想は「思っていた以上に狭い。企画展の広さは空襲展の会場としては狭い。」「子どもの平和教育の施設としては、狭く展示内容も難しいのでは?」「戦争に関する資料が保存されたことは良かったが、戦災に関する展示は物足りない」等々。

### 誰でもいつでも学べる・発信できる「平和記念館」を神戸に！

現在、神戸市の「神戸空襲」に関する展示は、常設展示が博物館の「神戸の歴史展示室」と兵庫図書館内の「戦災記念資料室」と「神戸市歴史公文書館」、「ホームページ」の戦災資料です。そして夏の中央図書館の2週間の「戦災関連資料展」です。

今年の5月に、兵庫図書館の「戦災記念資料室」がリニューアルされ、新聞やニュースでも取り上げられましたが、案内表示もなく、展示室の広さも元のままで10人も入れば一杯の広さです。全てが細切れの物足りない展示となっています。

子ども達が平和教育として、「神戸空襲」をせめてクラス単位で学べる場所が必要です。今の神戸にはそれを満たす所はありません。空襲体験者もどんどん減っています。子ども達だけでなく大人も学ぶことが必要です。子どもも大人も歴史をしっかりと学んで、「平和がいかに大切か、戦争をしないために何ができるか」そんなことが学べる、そして発信できる「平和記念館（資料館）」が、神戸市にも必要です。



### 講演会のお知らせ

#### 「紛争地から見た 憲法九条の価値」（仮題）

講師：西谷文和さん（フリージャーナリスト）日時：11月28日（土）午後2時より

場所：新長田ピフレホール 会議室A 参加費：500円

ウクライナ、ガザ、イラン等世界の紛争地を周って取材されている西谷さんに、日本の憲法九条が持つ意味をお話していただきます。

連絡先：神戸に平和記念館をつくる会 電話 090-6370-9317（長久武司）

募金振込先：郵便局〔店番〕438 普通預金〔口座番号〕8808444